

- 1 渡り鳥水尾の祖国によろしくと
- 2 曼珠沙華開き放てる帆影かな
- 3 船着場見たことのない蟻がある
- 4 蚩酒徴兵を經し底無しと
- 5 玉葱に挽肉を詰め焼ひたもの
- 6 野良犬を野犬に変ふる早星
- 7 短夜の街路に満つる眠り人
- 8 木下闇動かぬならば死んでをり
- 9 熱帯や計画都市の四車線
- 10 源五郎までは喰つたが田亀とは
- 11 顔覆ひ赤き水着を選ぶ人
- 12 炎昼の鼠濁流渡りきる
- 13 薔を斬る刃一閃椰子実売り
- 14 山清水異教の神の祠から
- 15 夕風の大湖白猫眠る舟
- 16 年の瀬に異国人のみ働けり
- 17 暮の市滅びし国の玩具買ひ
- 18 行く年やあなたの上に平和あれ
- 19 隠れ里春着映えたる異相の子
- 20 沙漠夕焼地平線へと影の伸び
- 21 水論や地主の雇ふ銃手の眼
- 22 夏草のたびにとどまる驢馬車かな
- 23 蜃気楼いくつ数へて実の村
- 24 あちらより来し旅人に日の永く
- 25 奔流をのぼりて七日春深し

- 26 〔渋滞の始めに牛尾虻を打ち〕
- 27 〔首都の宿踏絵とされし敵の顔〕
- 28 〔念腹忌逞しきもの溶けゆけり〕
- 29 〔駅前の川に少年鮫を釣り〕
- 30 〔電線を渡る一列冬の猿〕
- 31 〔暖炉火や機銃痕ある喫茶店〕
- 32 〔隔離地区焚火の人ら棒を手に〕
- 33 〔煙草買ふ鉄格子から虎落笛〕
- 34 〔牛鍋に似た何か喰ふ屋台かな〕
- 35 〔着陸や高原の雪斬りつけて〕
- 36 〔天空の氷樹抜けゆく道ひとつ〕
- 37 〔綿雪と巡礼遠ざかる車窓〕
- 38 〔雪嶺の低き沸点鍋煮えず〕
- 39 〔日本鍋取りわけられて具の混ざり〕
- 40 〔頂上やここも地球か冬星座〕
- 41 〔源流の雪片育て文明に〕
- 42 〔草の花ここに町あり空爆で〕
- 43 〔水澄めるかぼそき川ぞ停戦地〕
- 44 〔鉄柵に結ぶ手紙を秋の風〕
- 45 〔末枯れて見えし寢墓を刻む死語〕
- 46 〔永遠に見下ろしてゐる鹿の首〕
- 47 〔大陸のいづこにもあり草相撲〕
- 48 〔望月や並ぶ仏に顔のなし〕
- 49 〔ちちろ鳴く動き少なき渡し守〕
- 50 〔ASAP 白ぎ北の風〕

- 51 一句削除代わりに狂い花を置く――
- 52 嚙られている青鮫のある歩道――
- 53 焚火越し座れるものの眼を見るな――
- 54 鉤爪や目貼の札も抉りけり――
- 55 人毛のセーターならば傷浅し――
- 56 北窓を塞ぎ暗闇なのにいる――
- 57 凍星に吼ゆればすでに人ならず――
- 58 竹馬の隊商越ゆる瘴の沼――
- 59 それは棒鱈ぶらさがっているそれは――
- 60 買わないか歴史を変える種袋――
- 61 死児の名を苗札に書く動き出す――
- 62 杏花散らし山駆け上がる神や風――
- 63 花藻海孕める女魚群るる夜――
- 64 登るたび死ぬ夢を見て戻る山――
- 65 老母喰い破り龍出づ青嵐――
- 66 午前二時紙魚の集える革表紙――
- 67 宿命がお代ですなと水売人――
- 68 小便も汗も獣の臭いかな――
- 69 廃城やつるべ落として死者醒めぬ――
- 70 月光の梯子架かれる書架の街――
- 71 胡桃割り人形の割る薬指――
- 72 天の川ほとんどいたるところ闇――
- 73 川舟と詩人と琴と踊子と――
- 74 ゼラニウム香る運河に魔女を焼く――
- 75 頂上に洪水を待つ竜の骨――

- 76 螺旋都市鳴く海亀の背に聳え―
- 77 聖杯を宿す階(きぎはし) 蔦紅葉―
- 78 登高や贅の乙女の腿白く―
- 79 鯨群来漁師の背から人面鳥(ハルピユイア)―
- 80 赤黒き槍傷隠す渡り漁夫―
- 81 眠る島起こし喰わるる夜網船―
- 82 交われる獣も人も亀の餌―
- 83 懸下都市二百十日の崖に揺れ―
- 84 不死鳥の今日もかからぬ囚籠―
- 85 添う滝のしぶきそぼふる路涼し―
- 86 吹き込みし風奏でたる秋の声―
- 87 動かざる山繭動く街に垂れ―
- 88 病葉の巷崩れて落ちにけり―
- 89 砂時計街逆立ちて秋行けり―
- 90 氷結都市凍解けし人勤めへと―
- 91 約束の御子ぞ眠れる氷柱かな―
- 92 夜の白乱さぬ砧一つ打ち―
- 93 蝦夷鼯(アーミン)に従い行かん雪の果て―
- 94 鷲打ちし石榴実れるカテドラル―
- 95 檜火消え北の文明滅びけり―
- 96 終末都市全人種流る雪解川―
- 97 天高し最期の狼煙消えにけり―
- 98 まず猫が絶滅次は蛙かな―
- 99 人類てふ無縁仏や墓洗ふ―
- 100 花芙蓉今日この世界滅亡す―